

未来型図書館をともにつくる！

こまつリビングラボ

【令和6年度第1回 開催報告】

1

開催概要

- 日時 : 2024年8月4日（日）13:30～16:30
- 開催場所 : 小松市役所7階会議室
- 参加者 : 83名



2

プログラム

1. 挨拶（宮橋市長、・野末教授（青山学院大学教授・リビングラボコーディネーター））
2. 未来型図書館の進捗について
3. ショートレクチャー ・ ワーク説明
4. グループワーク（みんなでライブラリーテーマを考えよう）
5. 全体共有
6. まとめ・次回予告

「新しい発見や想像力を沸き立たせる」
テーマ性のある書架について考えました

3

対話内容

対話 未来型図書館ならではの「ワクワクする」ライブラリーテーマを考える

①多様な小さなキーワードを考える

個人ワークとして、多様な「読む」体験やメディア・情報源を意識しながら、未来型図書館の書架にあったらいいキーワードを書き出す。

②ライブラリーテーマを決める

グループワークで、それぞれのキーワードをグルーピングし、話し合いながら複数のライブラリーテーマを考える。

第1回 こまつリビングラボの開催フロー

ライブラリーテーマを考えるための
ショートレクチャーを実施します。



ショートレクチャー



自己紹介

まずは個人ワークとして、
未来型図書館の書架にあったらいいキー
ワード（個人的なものでOK）を書き出します。
できるだけ多様なキーワードを出しましょう。



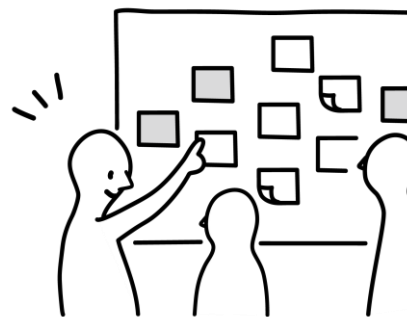
多様な小さなキーワードを考える

グループワークで、それぞれのキーワードを
グルーピングし、ライブラリーテーマを話し合います。
複数のライブラリーテーマを考えます。



ライブラリーのテーマを決める

キーワードからライブラリーテーマに至った
プロセスを、全体で共有します。



共有

開催の様子 (1)

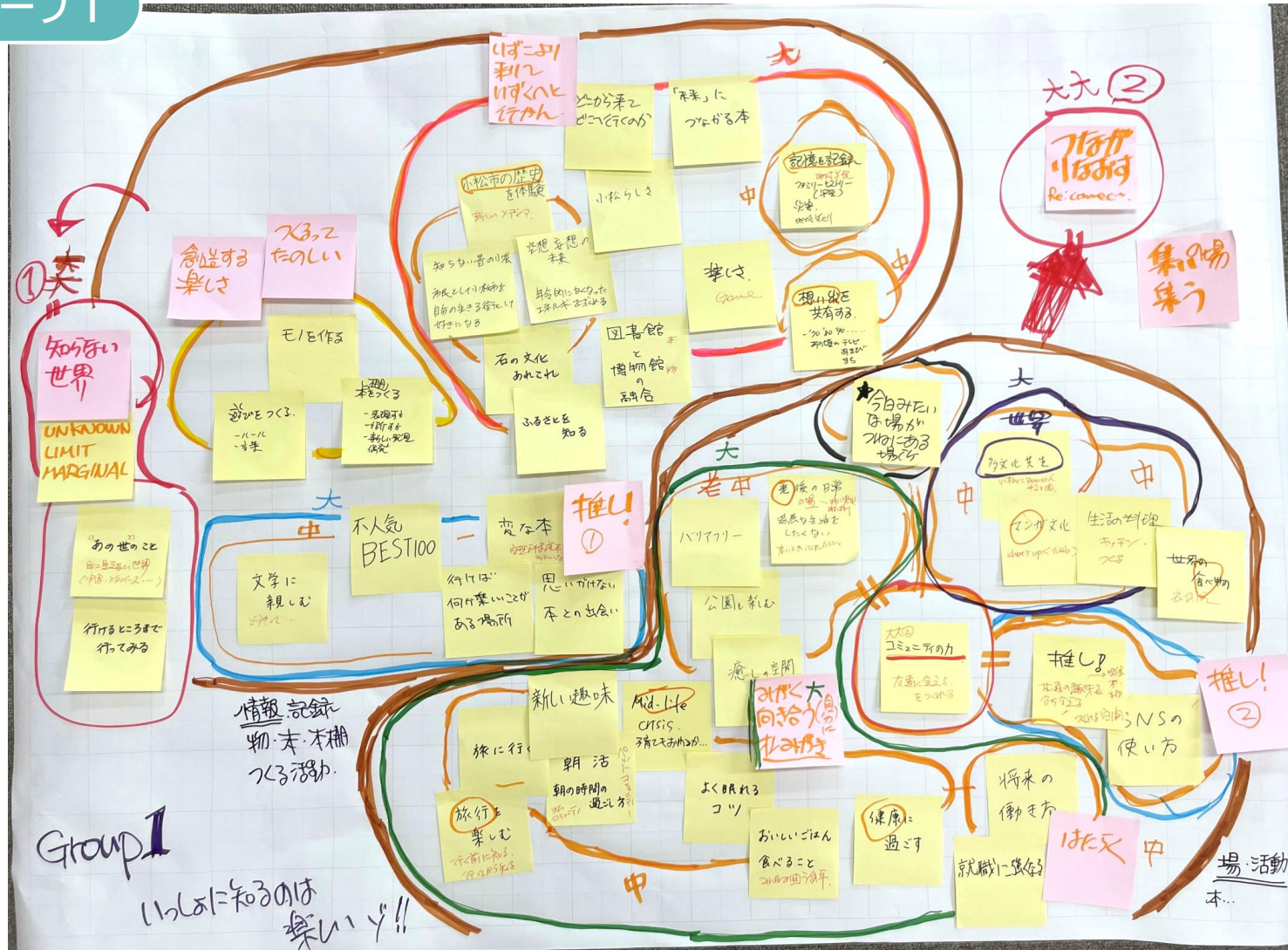


開催の様子(2)



ワーク結果

グループ 1



検討のプロセス

野末先生の読書の再定義・多様性、事務局のテーマ配架的アプローチについての導入は良かったです。その上で、初めて参加した方にとっても「ライブラリーテーマ」というお題を自分に引きつけて考えられるよう、補足的に「学校の教科（知の体系・分類）の学びと実際の暮らしの課題（合科・体系横断的な知流）の視点の違い」というお話をし、自分自身の暮らしの中から発想してみてはどうかという流れとなりました。

参加者それぞれの興味関心（多文化共生を課題に活動している人は料理や漫画を通じたコミュニケーションなどの普段の取り組み、学生は就職や働くことなど）に沿った暮らしのテーマが大中小にかかわらずあげられました。

グループワークで仕分をしたところ「創造する楽しさ」「私たちはどこからきてどこへ行くのか」「推し」の大テーマを括って大大テーマとして「知らない世界」、また、「老い」「オレ磨き・向き合う（ミッドライフクライシス・中年の再出発が関心の中心でした）」「働く」「推し」「世界」「対話」の各大テーマを括って「つながり直す」の二つに括られました。（中・小テーマはチャート参照）

これらのテーマを実現するメディアや方法についての議論も併せて行われました。

「知らない世界」については、本、本棚、デジタル含めた情報、モノを「創る活動」がライブラリーに埋め込まれること、「つながり直す」については、リビングラボのような「対話の場」がライブラリーに常にあることが肝要ということが語られました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

情報を創る活動

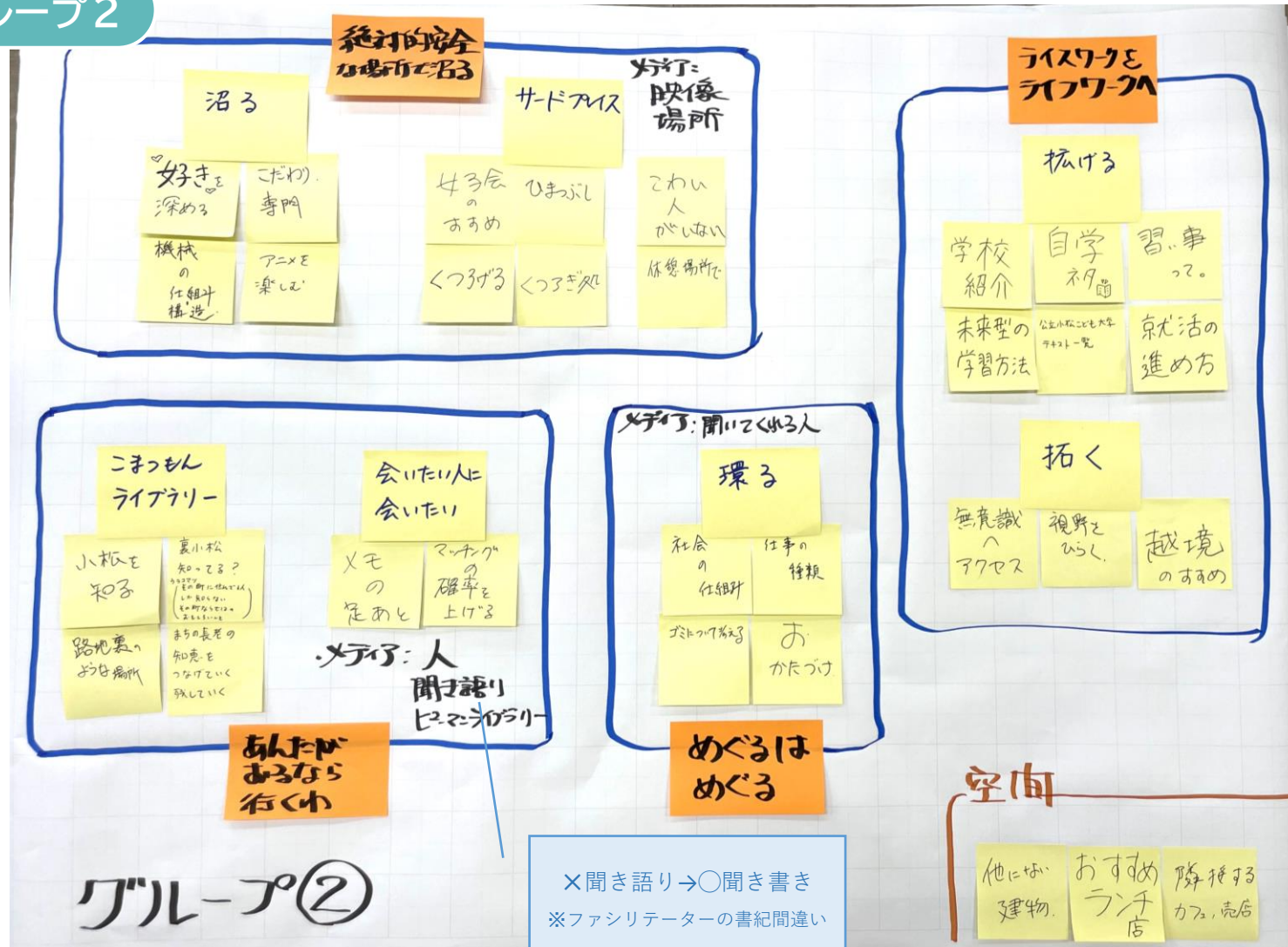
②

つながりをつくる対話の場

(グループ1)

ワーク結果

グループ2



検討のプロセス

小学生や大学生も、大人も、フラットなコミュニケーションの中で、少しずつではありましたが、個人(わたし)の想いや考えを出し合うことができました。他方、「ライブラリーのテーマ」の理解についてはばらつきがあり、レクチャーやオリエンを通して頭ではわかっていても、ワークを進めていくと「図書館のテーマ」になってしまうケースも一部見られました。具体的なメディアの事例等も挙げながら、**共創の中でテーマライブラリーを考えるには、よりリアルなメディアや具体的に場やものを示すことが重要だ**と感じました。

キーワードが個人の想いが込められたものが多かったので、限られた時間の中で、それらをまとめてテーマとしたり、名付けることは難しかったのですが、例えば「沼る」と「サードプレイス」といった、一見関係なさそうなテーマに関しても、**キーワードに込めた想いをそれぞれが語り合うことで、つながりを見出すことができた**と思います。

大テーマについても、このメンバーで、こうしたプロセスを経たことで、みんなでユニークな言葉を紡ぎ出すことができました。**根底にあったのは、未来型図書館が「くつろげる」「目的がなくてもいられる」場になってほしいという想い**でした。こうした図書館全体に期待する想いが、「ライブラリーのテーマ」にも色濃く出ていると思います。

ライブラリーを構成するメディアについても、紙の本だけでなく「映像」「場所」「人」「聞き書き」「ヒューマンライブラリー」「聞いてくれる人」といったものが出てきました。この日考えた**テーマライブラリーを実現するには、このような多様なメディアが必要ではないか**、という考えが示されました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

建築や地域とのつながりのあり方
とテーマの連携

②

つながりを見出すためのコミュニケーション(個人の想いから)

③

多様なメディアの実現に向けて
具体的な検討・実践

(グループ2)

グループ3



検討のプロセス

「図書館」や「本」というものにもともと関心の強い人、あまり関心がなかった人のどちらもいるメンバー構成がグループ3の特徴でした。誰にでも図書館や知ること・学ぶことも接点になりうる「**敷居の低さ**」というところを起点としながら議論が広がり、それがこのグループのライブラリーテーマの一つとなりました。

メンバーの実体験から、**紙の本だけではなく、実際に人の話を聞いたり語り合ったりすることも、知ること・学ぶことの接点になりうるのではないか**、という考え方も示されました。これは「敷居の低さ」という視点ともつながりますが、様々な人が各ライフステージで壁にぶつかったり、悩みが生まれた際に、**多様な人の生き方、考え方に触れる機会や情報源がある**ことで、その障壁を乗り越えることを助け、活動や学びを広げるきっかけになるのではないかという話へも展開していきました。また、生きていく・暮らしていくうえで、必要な情報を支えるライブラリーが必要なのではないかというキーワードもいくつかあがりました。こうしたキーワードやテーマを総合し、自分自身や他者の生き方や暮らしの「**リアル**」というもう一つのライブラリーテーマが生まれました。

また、あがったキーワードをグルーピングしてく際には、ショートレクチャーでお話のあった「目的としての読書」と「手段としての読書」についても意識しながら議論が進みました。この2つは、はっきりと分かれるのではなく、「**目的**」にも「**手段**」にもどちらにも属するものがあり、双方はグラデーションの関係にあるのではないかということが見えてきました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

各テーマやキーワード間の
相互的な関係性の整理の必要性

②

どこにも属さない
キーワードの検証

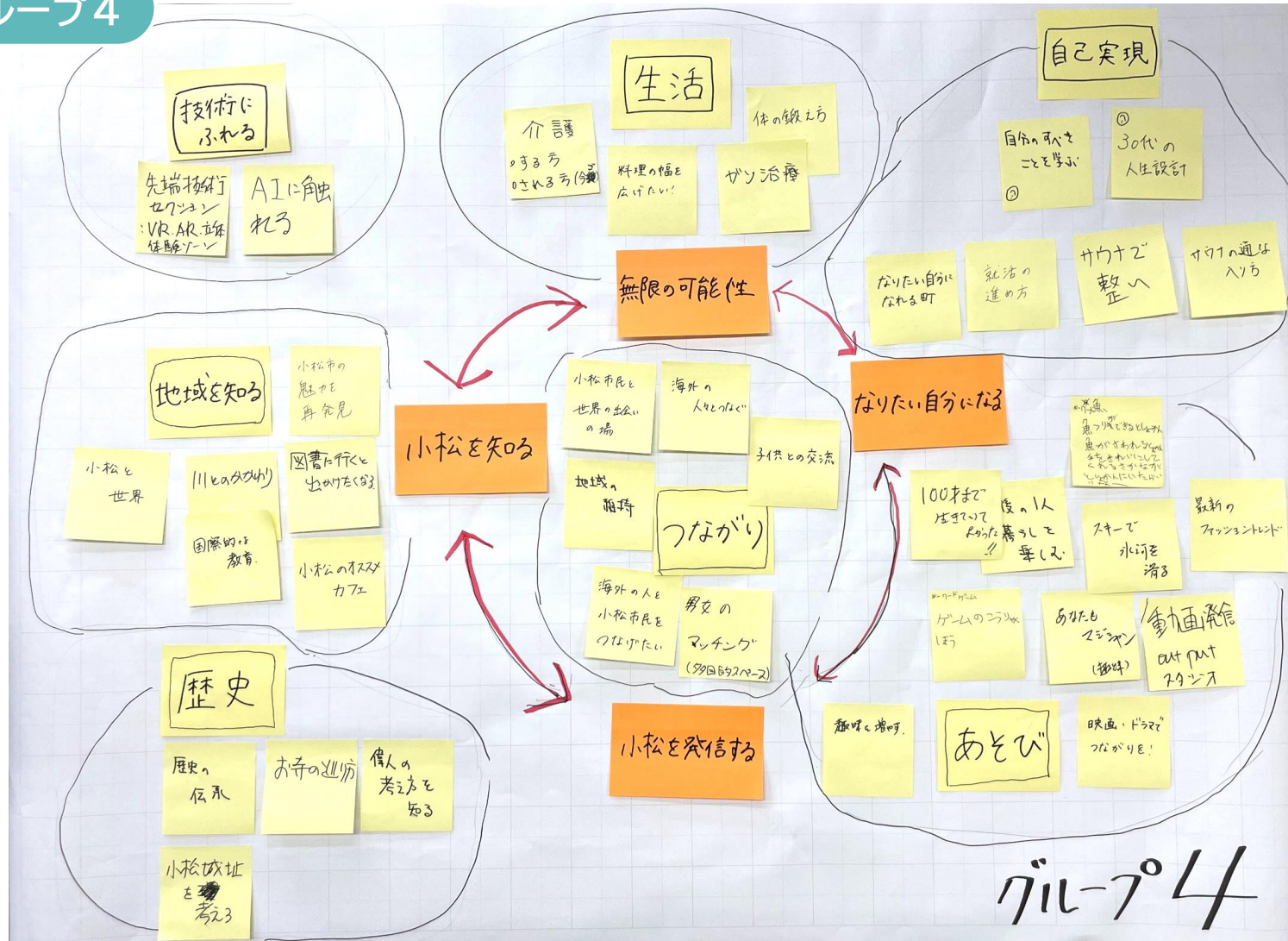
③

「目的としての読書」と
「手段としての読書」のバランス

(グループ3)

ワーク結果

グループ4



検討のプロセス

このグループのメンバー構成は、小学生、学生、地元で長く働く方や仕事で小松市に住む方など、小松市を中からも外からも見ているメンバーで構成されていることが特徴的でした。

個人ワークで書かれたキーワードには、メンバーそれぞれの興味関心ごとが多く書かれ、テーマを構成するメディアも、動画や人など、書籍だけに縛られないキーワードが多く出たことから、関心ごとの傾向や粒度を整理することから議論が始まりました。

キーワードの整理では、メディアの種類についても意識しながらのグルーピングとなりました。さまざまな興味関心ごとや、あり方への入り口としての情報があること、さらに、それを受け入れる器として図書館があってほしいという話がでるなど、ライブラリーのあり方そのものも議題にあがりました。その結果「**ライブラリーを通じて自分がどうありたいか**」を意識しながらの整理となりました。中テーマとして「あそび」や「自己実現」がまとまったあたりから、それぞれの中テーマに相互関係があり、テーマに循環が生まれるのではないかという仮説が上がり、その結果、「**多様なあり方を受け入れる**」として4つの大テーマが、それぞれの大テーマに相互関係も見出されました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

各テーマやキーワード間の
相互的な関係性や整理の必要性

②

どこにも属さない
キーワードの検証

③

各テーマやキーワードの
補完の必要性

(グループ4)

グループ5



検討のプロセス

様々な立場で、小松のまちづくりについて考えている方がいるのが5グループのメンバーの特徴です。その上で、新しくできる未来型図書館が果たす役割について議論が展開しました。

大きくは、図書館＝本がある場所ということだけでない、様々な出会いや新しい視点を得る場となることが重要だという考え方が共通点としてあげられました。例えば、普段住んでいる小松のまちを再発見する上では、自分以外の視点が重要であることが語られました。

その出会いは、一人ひとりの世界を新たに切り開き、その人の人生観を変えるきっかけになることや、今まで繋がっていなかった人が地縁ではない、興味関心によって繋がりを持つことなど、図書館ができることが、人に与えるポジティブな影響についての議論が深まり、さらに、「心を満たす」「泣きたいときに読む」「ウェルネスより豊かな人生」など、人の内面的な豊かさを育むような場であって欲しいという話にまで広がっていきました。一方で、知識を深めるという図書の持つ基本的な性質も大事にしたいという声もありました。

以上から、「新たな出会い」「豊かな人生」「心で感じよう」などが、このグループのキーワードとして浮かびあがりました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

図書だけでない新たな出会いを生み出す具体的な方法の検討

②

自分の視点以外で情報にアクセスする具体的な方法の検討

③

人の内面に働きかけるような空間についての検討

(グループ5)

グループ6



検討のプロセス

グループ6は、小松市育ちのブラジル人、図書館活動をしている方、まちづくり活動をしてる方、建築家、障害のある方など中高年男性を中心としつつ、それぞれ立場の明確な市民が集まったグループでした。一方で殆どの方が小松市図書館をほとんど利用していないということも特徴的でした。

図書館の在り方については、障害のある方から提起された公共交通アクセスや働く世代からの開館時間の課題提起が出され、特に交通については各々が取り組んでいる活動(地域で乗合いワゴンを実施している、徒歩を推進しているなど)が、公共交通の充実だけでなく互助活動の必要性と共に話し合われました。

また図書館での今後の活動について、オンラインを併用し市民が教える側、学ぶ側双方になる学び合いの活動の提案がなされ、コロナ前に同窓生と有志で行っていた「熟年塾」やドローンで街を空撮して小松を発信する活動の仲間を集めたい！といった具体的な活動を紹介し合うシーンもありました。

図書館におけるテーマについては、小松の歴史やまちづくり、ものづくりといった郷土にまつわるものから、様々なメディアが林立する現代だからこそ改めて図書館や本について掘り下げてはどうかといった意見や、多文化や国際交流についても話し合われ、グループ6ならではの議論になったと思います。

最後の中テーマや大テーマの議論においては何度も付箋の貼替えを行い(最後に全部貼直しました)、歴史や文化に根差した「日常」のテーマと新たな学びや発見に出会う「非日常」のテーマが、相互に横断しながら交錯する場として、大テーマが導かれました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

今の図書館からすぐに始める！
市民の学び合いの活動の実施

②

図書館とは何なのか？を
真剣に話し合う場づくり

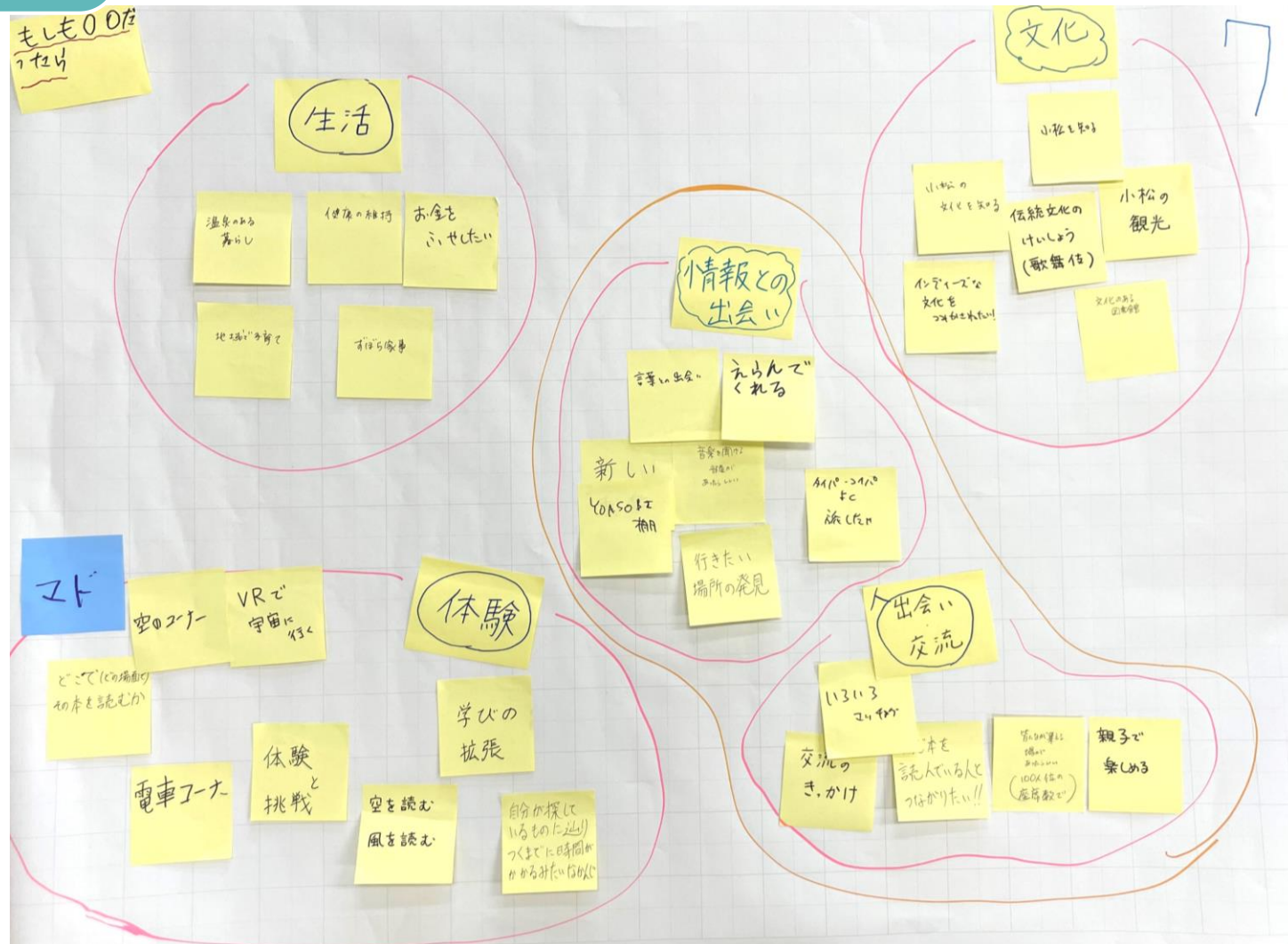
③

まちづくりや都市交通を
共に考える、実践する場づくり

(グループ6)

ワーク結果

グループ7



検討のプロセス

地域で活動されている人や、市外から通学している人、また年齢層も児童から大人まで幅広くいるメンバー構成がグループ7の特徴でした。また、未来型図書館への関心興味はあるが、ライブラリーテーマのキーワード出しに苦慮する方もいたため、まずは、幅広いキャラクターを活かしそれぞれの興味がある個人的なことをキーワードとして出してもらうことにしました。

キーワードの発表は、基本的に1人1枚ずつ順番に発表し、キーワードの意味や思いを語って頂きながら、関連する・あるいは真逆なキーワードを持っている人は、掛け合いのような形でキーワードを出す形式としました。

その結果、自分が知らなかったことや、**小松の文化に興味があるというくくりの中でも、歌舞伎や加賀太鼓、観光、インディーズ文化など、よく聞くと細部が違う**という発見があり、ショートレクチャーでお話があった**本以外のメディアのなかに、「他の人」も情報だ**よねという話になりました。

そこで「選んでくれる」「いろいろマッチング」「学びの拡張」など情報や人、体験などと出会えることが未来型図書館では起こって欲しいという議論になり、なぜ出会い、交流して、体験したいのかを改めて話し合う中で、小学生の男の子たちが書いてくれた「VRで宇宙に行く」「電車コーナー」というような「好き」を増やすためではないかという話になり、「もしも〇〇だったら」をライブラリーテーマとしました。

このテーマライブラリーを実現するための課題

①

自身が興味のないテーマとの意図しない出会い方の検討

②

テーマライブラリーのなかで体験をどう実現するか

③

色々の人の「好き」をどう反映していくか

(グループ7)

ライブラリーテーマ構成（案）

各グループで検討したライブラリーテーマ・中テーマ・キーワードを整理、統合し、未来型図書館のライブラリーテーマ構成(案)として以下のようにまとめました。別途開催したオンライン開催やその他の検討を踏まえ、更新・調整を重ねながら、未来型図書館の配架計画や図書館機能に反映していく予定です。

※印のものは整理にあたり新しく名付けたもの

ライブラリーテーマ	中テーマ	キーワード
1. こまつを知る	①ふるさとを知る	小松の文化を知る、小松の観光、インディーズな文化を積み重ねたい！、小松はなぜ小松？、小松のなかでも方言が分かれていることを再認識、小松の文化を学ぶ、小松らしさ
	②まちのなりたち	石の文化あれこれ、伝統文化の継承（歌舞伎）、小松城址を考える、偉人の考え方を知る、川とのかかわり、小松の歴史・文化・成り立ち
	③こまつ歴史	知らない昔の小松、歴史の伝承、歴史を学ぶ、前田家より強い歴史（浅井なわての戦い）、歴史体験、小松の歴史を知る
	④「私」がいるところ orこまつを発信する	お寺の巡り方、グルメ紹介、小松のおすすめカフェ、路地裏のような場所、裏小松、知ってる？、アクセス、小松は深く面白い、小松とは、小松の穴場スポット、誰もが楽しく旅行できる
	⑤まちの再発見	小松の魅力発見、小松市の魅力を再発見、地域の新たな発見
	⑥世界という視野で※	世界の中での日本の立ち位置・方向、こまつを（日本）学ぶ、日本を知る、海外に目を向ける、小松と世界、国際的な教育
	⑦こまつこれから※	空想妄想の未来
2. わだちをたどる ※	①記憶を記録	ファミリーヒストリー（写真）、まちの長老の知恵をつなげていく・残していく、災害
	②思い出に触れる	あの頃のテレビ・あそび・まち
	③それぞれの人生※ or会いたい人に会いたい	色々な人の生き方、生き方を探す、いろんな人の考え方に触れる、年齢の関係ないお話会、メモの足あと

ライブラリーテーマ構成（案）

ライブラリーテーマ	中テーマ	キーワード
3. なりたい自分になる※	①健やかでいるために※	サウナで整い、サウナの通な入り方、遊び、楽しく体を動かす、心を満たす、泣きたいときに読む、読むと視力が回復する、読むと眠気が解消する、体の鍛え方、癒しの時間、よく眠れるコツ、おいしいごはんを食べること、健康の維持、足湯、自然体、Energy、Health、生活の料理
	②広げる	学校紹介、自学ネタ、習い事って、未来型の学習方法、公立小松こども大学テキスト一覧、夏休み自由研究のヒント、学問の最先端理論の紹介、学び合う仲間、「遊び」と「学び」、世代別興味
	③働くを知る	いろんな働き方を知ろう、働き方のリアル、就活の進め方、将来の働き方、就職に強くなる、就活の進め方、仕事の種類、学び合い・教え合いお仕事を知る体験
	④自分探しの旅へ	人生観を変える、一人旅に行く、人生を旅する、自分を知る
4. 豊かな人生	①暮らしを楽しむ※	最後の一人の暮らしを楽しむ、おかたづけ、料理の幅を広げたい、公園を楽しむ、温泉のある暮らし、お金を増やしたい、ずばら家事
	②沼る	魚、スキーで氷河を滑る、ゲームの攻略法、あなたもマジシャン、趣味を増やす、映画・ドラマでつながりを！、新しい趣味、朝活 朝の時間の過ごし方、好きを深める、こだわり専門、機会の仕組み・構造、アニメを楽しむ、建築は面白い、絵本は面白い、写真は美しい、音楽でつながる、趣味を見つける、文学に親しむ、趣味を極める、電車コーナー
	③旅に出る※	縁のある観光地、タイパ・コスパよく旅したい、本で旅する、バーチャル旅行
	④生きるを支える・支え合う※	未来の医療・病院、介護、がん治療、健康に対する意識を幼少から学ぶ、お金に対して学ぶ、社会貢献とは、助けを求める、やめたいのにやめられない（依存症の世界）、バリアフリー、地域で子育て、バリアフリー・インクルーシブな社会、からだ・健康・病、障害、Money

ライブラリーテーマ構成（案）

ライブラリーテーマ	中テーマ	キーワード
4. 豊かな人生	⑤生きがいを持って生きる	いつからでも学び直し、長生きする人生、定年後に社会で生きる、100才まで生きていてよかった！！、30代の人生設計、なりたい自分になれる町、これを知らないと損をする、行けるとこまで行ってみる、「未来」につながる本
5. 創造する楽しさ	①モノをつくる	ものづくりの“沼”、ものづくりのノウハウ
	②遊びをつくる	—
	③表現する※	本をつくる、創作意欲をかき立てる、共につくる本棚、みんなの本棚見てみたい、私の本棚見て欲しい
6. つながりなおす	①世界とつながる※	小松市民と世界の出会いの場、海外の人々とつなぐ
	②人とつながる※	交流のきっかけ、親子で楽しめる、子どもとの交流、友達に会えるをつくれる、女子会のすすめ、男女のマッチング、趣味の友達作り、経験を共有する、趣味の共有、マッチングの確立を上げる
	③地域とつながる・地域をつなぐ※	地域との対峙、海外の人と小松市民をつなげたい、まちづくりの進め方、まちづくり多様性で難しい
	④つながりの化学反応※	色々マッチング、〇〇本を読んでいるひととつながりたい！！、共通の趣味を分かち合える
	⑤情報を使う※	フェイクニュース、SNSの使い方、よろず相談
7. めぐるはめぐる	①環る	社会の仕組み、ゴミについて考える
	②過去・現在・未来※	時代別小説
	③いまを知りたい※	今流行しているもの、貸し出しベスト10、最新のファッショントレンド

ライブラリーテーマ構成（案）

ライブラリーテーマ	中テーマ	キーワード
8. 知らない世界	①文化と触れ合う※	文化交流、宗教、外国人との付き合い方、貧しい人々の実態、外国の文化を学ぶ、楽しく英語を話す、異文化理解、世界の食べ物、職人
	②技術に触れる	先端疑似セクション、VR・AR・立体体験ゾーン、AIに触れる、最新技術、新しい体験ができる、IT・DX・体験
	③情報との出会い	言葉との出会い、行きたい場所の発見、音楽との出会い“聴く”図書館（本棚）
	④わたしたちをとりまくもの※	「自然」と学ぶ、美、空のコーナー、VRで宇宙に行く、空を読む、風を読む
	⑤生と死※	あの世のこと、どこから来てどこへ行くのか
	⑥拓く	無意識へのアクセス、視野を開く、越境のすすめ、体験と挑戦、学びの拡張、不人気BEST100、変な本、思いがけない本との出会い